



西原の医療機関について

— 戦前を中心に —

西原町には現在、多くの医療機関があり、私たちが健康で生活するための支えになっています。そこで、今回は戦前の西原村にあった医療機関について紹介したいと思います。

一九〇一年（明治三十四）の琉球新報に西原の最初の病院と思われる炯炯堂医院の開院広告が掲載されています。（左記事）

廣 告

生儀今般左ノ所ニ於テ内外科諸眼科殊ニ
トワホーム、星目、ソコロ、チカケ、養眼、
其他一般手術ヲ要スル日最近新治療ヲ施
ス

中頭郡西原開切小那覇村宮里小方
炯々堂醫院
龍 知 英

その後、一九〇九年（明治四十二）に北道一氏（左写真）が

西原村医となり、同時に西原医院を

呉屋に開院しまし

た。北氏は積極的



に西原小学校の運動会や婦人会などで挨拶をし、講演会活動も行いました。

一九一四年（大正三）には、本部村出身の牧志正敏氏が西原村で病院を開院しましたが、三年後に伊平屋島に移りました。

一九三二年（昭和六）に大久保禎二氏が小那覇に「大久保医院」を開院しました。大久保氏は一九〇一年（明治三十四）に鹿児島県大島郡早町（さうまち）に生まれ、長崎医科大学専門部に進み、一九二五年（大正十四）同校を卒業した後、各地の病院に勤務しました。左の写真は、昭和十一年ごろに小那覇の大久保医院前で撮影された家族写真です。聞き取り調査によると、

大久保医院の建物は沖縄県立農事試験場西原試験地の建物の一部を移築したそうです。



大久保哲男氏提供

現在でも大久保医院のことを記憶している方々が多いのではないのでしょうか？当時の思い出を語ってみませんか。